

スキー、トライアスロンとの出会い

仲原敬一郎さん(静岡県)

「これからも気力、体力の続く限り、挑戦・感激・感動」の精神を忘れずにスキーを楽しんでいきたい

スキーの魅力に取りつかれ、結婚後脱サラを決意

フェロースキーツアーの参加者の平均年齢は、年々確実に上がっている。ヨーロッパ方面で54歳、カナダ方面で46歳……。5年前と比べて、7〜8歳も上がってきている。こんなところにも高齢化社会の波が押し寄せているわけだが、確実に言えることは、世間一般の同年齢の方々と比べて間違いなく元気だということだ。遠く海外まで出かけてスキーを楽しむということで、元気なのは当たり前かもしれないが、ここで紹介するのはその

元気さにおいてまさに超下級、相当元気な10歳代、20歳代の若者も全く相手にならないほどの強者をご紹介しよう。その名は仲原敬一郎氏。静岡県沼津市在住の70歳である。

スキーとの出会いは昭和30年頃、冬山登山のためにスキーを習得しようとしてスキースクールに参加したのがきっかけだった。スキーはスポーツ店でのレンタルに米軍放出品の寸法を詰めたヒッコリーカンダーハーフ縛具、日本竹ストックにゴム製紐締めめのスキー靴だった。夜行列車で着いた先は野沢温泉スキー場。山小屋泊宿と思っていたのが、温泉旅館で大感激。以後、登山よりもスキーの魅力にのめりこんでいった。結婚して間もなく、スキーに熱中したくてサラリーマンから自営業に転進。指導員資格取得と団体社年組選手出場(35歳)、地域スキー団体と県スキー連盟に関わり、また5年前に県スキーマスターズを設立して仲間とスキーやゴルフを楽しんでおられる。カナダCMHヘリスキーでは、2000年、念願の累積滑降標高差ミリオンフィート達成した。

48歳でトライアスロンの存在を知り、即出場を決意

ここまでなら、元気なフェロースキーのリーダーにとってそれ程珍しい話ではないかもしれない。しかし、阿氏の場合これにトライアスロンが加わる。その輝かしい実績を聞くだけで「同じ人間でありながらこうも違うの

か」と圧倒される思いだ。

48歳のとき、「肉体の限界に挑む鉄人レース・トライアスロン、ハワイ」のトライアスロンレースの紹介記事に衝撃を受ける。50歳の体力を試してみたい。また未知への挑戦に駆られ、即出場を決意。当初は大会や組織のことから練習方法まで情報が少なく、試行錯誤だったが、1983年からの20年間、国内外45大会に出場。国内12大会優勝。国外ではカナダ60歳代、スイス65歳代、チエジュニ(韓国)66歳代優勝! 50歳代を含め、ハワイ世界選手権大会に4回出場を果たした。この間、地域トライアスロンクラブを創設、県協会組織を立ち上げ、平成15年団体デモ協賛を実施するなど、選手のみならず役員としてもまさに八面六臂の大活躍を見せる。

トライアスロンは2003年に引退したものの、スキー歴50年、トライアスロン歴20年を継続できたのは、仲原氏曰く「健康であったこと」。そして国内、国外とへ行くにも「佳子夫人」のサポートの賜物という



2003年4月、カナダ、CMHのヘリスキー

ことだ。「これからも気力、体力の続く限り、挑戦・感激・感動」の精神を忘れずにスキーを楽しんでいきたいと考えています」という力強い言葉とともにインタビュを終えた。

※トライアスロンの中でもアイアンマンレースは、水泳3・8km、自転車180・2km、マラソン42・195kmの合計226kmを争うもの。



2005年5月、コルバラにて。お隣はご夫人の佳子様



2000年10月、ハワイの鉄人レース世界大会。年代別で7位入賞